

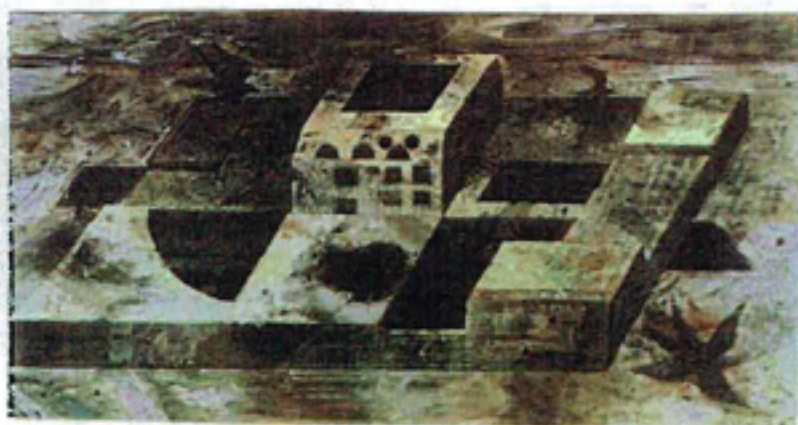
毎日新聞

夕刊

発行所 北九州市小倉北区東町
13-1 (郵便番号 802)
毎日新聞西部本社
電話 (093) 541-3131
郵便振替口座 福岡 5-11030
〒802-0134
© 毎日新聞社 1988

美術 滝純一展

美と自意識との格闘



「風巢」(1987年)

の中に、遠慮がちにするされはしはは箇の中に隠れながら、有機物の持つ曲線で、魔

やがて、相い重を積った籠虚のシャープな線と交差し合

りながら、足の長いやせた犬や赤いた裸木を踏いていく。

犬の多くは後ろ姿で、時々、振り返っては、見る人と向かい合う形になる。犬たちがは

うのは、矩形に区切られた地面の上で、ここにも機能的な

幾何学模様への画家の偏愛がうかがえる。そして、この地面を走る直線が、犬の足や尾

がつくる曲線とスパークして、緊張をよんでいる。

最近描き続けている田原城の長崎県・鍋島(重信)は、

籠の幾何学模様(無機物の機能美)への偏愛を凝らして余

りある題材だったろう。たとえば、「風巢」(一九八七)

に描かれているような、精明

を反射するコンクリートの建物。魔虚になった人工物の冷

たく無味な形態が、四角い窓

やくぼみや相まって、死と隣

り合わせのような甘美ささえ

放っている。

しかし、籠はこの魔虚の上

に開を轟き、耳黒な生き物たちを配している。犬や鳥たち

籠は、無機物の持つ幾何学的な美しさの中に、生き物と間を配して、深みのある、緊張した画面を作り上げる画家である。画家は画面で、美と自意識の格闘を演じながら、見る人に訴えかけてくる。

籠にとって、直線が魔虚さ

(徹)

1988年(昭和63年) 3月10日 (木曜日)